田井幹夫氏が語る，美しい木の質感を保ち，耐久性を実現する木材保護塗料

キシラデコール

FOCUS-IN
material
product
engineering

日本エンバイロケミカルズ株式会社
http://www.xyladecor.jp/

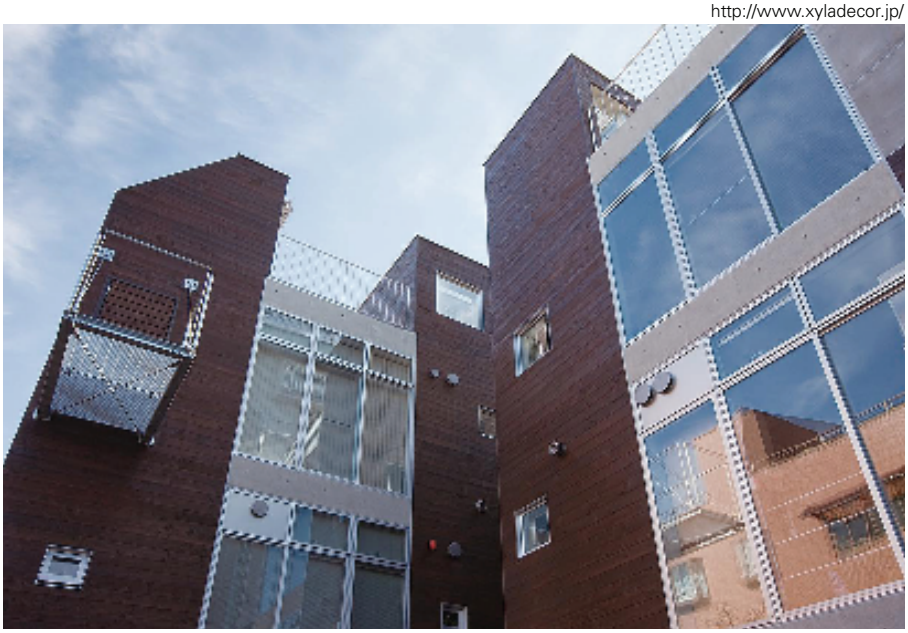
経年変化に耐えながら質感を保つ保護塗料は，木材を使う現場では欠かすことができない．建主のために何をポイントに素材や製品を選んでいるか，建築家の田井幹夫氏に自身の設計した「KEELS 四谷の塔状住居群」（本誌0902）を中心にお話を伺った．

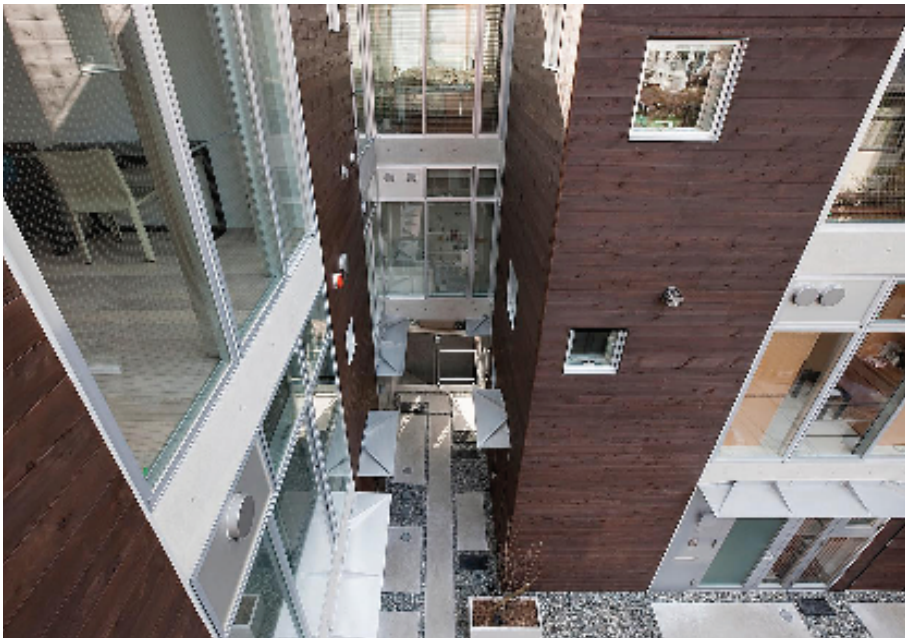
木の外装の魅力

「KEELS 四谷の塔状住居群」は9戸のコーポラティブハウスです．集合住宅では住人の愛着がインテリアだけに現れることを危惧していたので，ここではそれぞれの住戸が塔状のコアを持って主張しながら，全体で皆の心の拠り所になる建築を目指しました．“KEEL” は船でいう竜骨という意味ですが，この塔が竜骨として構造を担い，設備であり，空間動線，採光をとる環境装置でもあります．その塔の外装には，やさしさやあたたかみを持った木を使おうと設計当初から決めていました．今回使ったレッドシダーとキシラデコールの組み合わせは，経験上間違いないことが分かっていました．キシラデコールには15種類のカラーバリエーションがあるのですが，濃い色の方が色持ちがよい傾向にあるようです．耐久性も高く，木の風合いも残す色であることを建主たちに伝え，彼らがこのパリサンダ色に決めました．街の中でもこの木のタワーは目を引く強さがあると共に，あたたかみを持っていると思います．

木を守る塗装として

8年前に設計した「千川・スクリーンの家」（『新建築住宅特集』0302）では，ファサードの木ルーバーにスギ板とキシラデコールの組み合わせを採用しました．レッドシダーのコストが高く汎用されていなかったので，スギ板の場合，耐久性をキシラデコールで保たせないといけないと強く感じたんです．その後他社製品も使いましたが，色落ちのしにくさと耐久性の高さからキシラデコールに戻りました．一般的に植物油系塗料がよいイメージがありますが，キシラデコールの安全性も全く問題ない．建築家として建主に勧められるのは，そうした安全性が保たれた上での優れた耐久性です．建築は完成した瞬間だけをいちばんよい姿としてはいけません．時間が経って素材の味が滲み出て空間と一致した時，本来の建築のよさが出る思います．「千川・スクリーンの家」は5年間何もメンテナンスしなかったのですが，木目に沿って抜けていく色落ちも自然でした．その後建主が自分で塗り直していましが，そうやって自分の建物に時間が経っても手をかけるアクティビティが「KEELS 四谷の塔状住居群」にも出てきてほしいです．木の風合いを時と共に楽しみながら，住人が長く愛着を持てるとよいですね．　（編集部）





上：「KEELS 四谷の塔状住居群」西側見上げ．下：共用アプローチを見下ろす．外壁には18mmのレッドシダー横羽目板張りの上，キシラデコール（パリサンダ）塗布．外装がレッドシダーの部分は構造のコンクリートの外側に空気層を設けて張り，木の断熱性能を活かした．それ以外のコンクリート部分は外断熱を採用し断熱パネルを張っている．

「千川・スクリーンの家」正面外観．スギ板にキシラデコールのジェットブラックを使い，耐久性を保たせつつインパクトあるファサードとした．

田井幹夫氏．　撮影：新建築社写真部